

2 次予防部会（生活習慣病検診管理指導協議会） 意見報告

1. 概要

次期がん対策推進計画骨子（2 次予防部分）に係る書面による意見照会

2. 意見要旨

（1）次期島根県がん対策推進計画骨子について

- ・働き盛り世代の受診率向上に向けた取組について、具体的な施策があるとよい。（居住地外の自治体でも検診が受診できる体制づくり、夜間・休日の時間外検診の実施等）
- ・安心・安全な検診実施の推進、受けやすい検診体制の整備を盛り込んで欲しい。
- ・子宮頸がんの場合、浸潤がん罹患率 0 が目標とすべき。
- ・地域保健・健康増進事業報告（平成 27 年度報告）で、乳がん検診の受診率は視触診とマンモグラフィーのものであるが、マンモグラフィーのみも含めたもので評価してもよいのではないか。
- ・目標、具体的な施策でいいと思う。

（2）今後のがん 2 次予防について（具体的に取り組んでほしいこと）

【検診内容（対象・検診方法・受診間隔）】

（乳がん検診）

- ・超音波検査（エコー検査）の有効性が検討されているが、高濃度乳房の問題もある為、出来るだけ早期に導入できるよう検討が望まれる。

（胃がん検診）

- ・ピロリ菌感染者については、毎年の内視鏡チェックが必要とのコンセンサスが得られているが、一律に 2 年に 1 回の根拠が不明なため、患者への説明も難しく、結局検診受診でなく保険診療での内視鏡を勧めざるを得ない状態である。その結果、検診と保険診療を隔年で行うこととなり、次第に主治医と患者も検診から離れていく傾向がある。
- ・胃がん内視鏡検診の対象者に「上部消化管疾患にて治療中の者、保険診療対象となる消化器症状がある者は除く」とあるが、保険診療対象となる消化器症状であるかの判断は難しい。数字上の検診受診率アップを目指すなら、有症状者や通院中も関係なく検診受診可能にする必要があるかと思う。

【精度管理】

- ・精度の向上等をいかにすべきか具体策が望まれる。
- ・乳がん検診の精度管理を行う上で読影医を集めて定期的に精度管理委員会を開き、

結果をフィードバックする必要がある。精度管理委員会のありかたについて検討して欲しい。

- ・各市町村において各がん種のがん検診に関する委員会を設置し、精度管理や事業評価を行い、それと県の各がん部会とが有機的な連携がとれるような体制の構築が必要。(全市町村でがん検診の委員会が設置されておらず、県のがん部会も年に 1 回程度で現状報告が中心と思われる)
- ・各がん検診について一律の推進計画を策定することは必要不可欠だが、一律たるがゆえに生じる問題もある。少なくとも死亡率減少効果の得られていないがん種について重点的に、その検診の固有の不利益やその対策をしっかりと検討できる場を設ける必要がある。(例えばそのがん種について圏域の精度管理委員会を設置したり、あったものは存続なり再開なりを推進すること)
- ・保健所において圏域や各市町村の具体的な精度管理や事業評価がきちんと行え、各市町村が迷わず自信をもって取り組めるアドバイスに期待する。
- ・対策型検診のみでなく任意型検診の評価についてどう考えていくか検討して欲しい。
- ・精度管理について実施医療機関の理解が得にくい状況にあるように感じられる為、医師・医療機関向けの研修会等でぜひ伝えて欲しい。
- ・精密検査の受診率が低いことが精度管理上問題になっており、検診機関での説明や行政による啓発を根気よく続ける必要がある。
- ・精密検査の受診率向上について、職域であれば会社に受診結果を提出させ、検診受診 100% の会社を表彰する事業を検討してはどうか。

【働き盛り世代にフォーカスした受診率向上対策】

- ・職域での乳がん検診、子宮がん検診の受診率が低いため、対策を検討して欲しい。
- ・働き盛り世代にフォーカスした受診率向上を目指すことはとても必要なことだと思うが、中小企業の多い市町村では職場検診として各種がん検診を実施している事業所も少なく、忙しいために町の実施するがん検診を受診することが難しいという課題がある。ここを解決するためには県としての一歩踏み出した施策がないと単独の市町村だけでは難しい。
- ・かかりつけ医もポスターやチラシ、口頭で通院患者に受診勧奨しているが、普段医療機関に受診していない住民に対する受診勧奨が不十分と考える。他県で検診時期に医療機関の外や人通りの多いところへのぼりを立てることで、通院患者以外にも周知できるようになったと聞く。他県の工夫等、取り入れられるものは取り入れていただけたらと思う。
- ・特定健診とがん検診の同時実施は有効だと考える。

【データ分析】

- ・がん登録などの分析により罹患率等が把握できるようにしていくとよい。
- ・がん検診の受診率について、県独自調査においても圏域別の数字がでるようになる
とい。

【評価】

- ・ロジックモデルをもとに具体的な目標と評価尺度を設定し、がん対策のPDCA（計
画・実行・評価・改善）サイクルを確立することが、最終目標を達成するために必
要。特に、評価・改善をおこなうことが大切。

【その他】

- ・市町村では人員・予算も減っていく中で、どのように効果・効率的に事業（啓発・
検診実施、精度管理など）を進めていくかを考えていく必要があると感じる。県や
保健所で主導してほしい。
- ・検診だけではなく、このような前駆症状があれば早期に受診したほうがよいとのア
ナウンスもできればよい。
- ・肺がん検診の受診案内の見直しをすべき。（モデル地区の設定、プロジェクトチーム
の立ち上げ）

2 次予防部会（島根県生活習慣病検診管理指導協議会がん部会）
 委員名簿（任命の日～H30 年度）

○胃・大腸がん部会

【部会委員】 ◎…部会長

（50 音順）

	氏 名	所 属・役職
委員 協議会	湯原 紀二	湯原内科医院 院長
協議会 委員 以外	◎星野 潮	ほしの内科胃腸科クリニック院長
	吉村 禎二	松江市立病院消化器内科総括部長・内視鏡室長
	足立 経一	（公財）島根県環境保健公社医療技監
	三ヶ尻 薫	JA 島根厚生連 検査担当部長
	陰山 志保	松江市保健センター健康推進課保健企画係
	中本 稔	県央保健所長

○肺がん部会

【部会委員】 ◎…部会長

（50 音順）

	氏 名	所 属・役職
協議会 委員 以外	◎磯部 威	島根大学医学部教授 呼吸器・臨床腫瘍学教授
	飴谷 資樹	松江市立病院放射線科部長
	伊藤 則正	松江医療センター呼吸器外科医長
	土谷 裕子	（公財）島根県環境保健公社健康支援課長
	陰山 志保	松江市保健センター健康推進課保健企画係
	村下 伯	松江保健所長

○子宮がん部会

【部会委員】 ◎…部会長

(50音順)

	氏 名	所 属・役職
委員 協議会	土崎 しのぶ	邑南町保健課課長補佐
協議会 委員 以外	◎京 哲	島根大学医学部産科婦人科学教授
	森本 紀彦	(医)正誼堂森本産婦人科医院院長
	入江 隆	松江市立病院 診療部長
	岩成 治	県立中央病院 医師
	土谷 裕子	(公財)島根県環境保健公社 健診支援課長
	牧野 由美子	出雲保健所長

○乳がん部会

【部会委員】 ◎…部会長

(50音順)

	氏 名	所 属・役職
協議会 委員 以外	◎野津 長	松江市立病院副院長
	黒田 弘之	出雲市立総合医療センター副院長
	吉川 和明	(独法)国立病院機構浜田医療センター乳腺科部長
	杉原 勉	安来第一病院長
	土谷 裕子	(公財)島根県環境保健公社 健診支援課長
	三ヶ尻 薫	J A 島根厚生連健康推進部次長
	紀 みどり	浜田市地域医療対策課保健予防係
	長崎 みゆき	隠岐保健所長

平成29年9月7日
島根県がん対策推進協議会
島根県健康推進課がん対策推進室